

法学関係書  
小野崎文庫

資料紹介②



故小野崎正明氏

文学、俳句書など六百冊の「放江文庫」  
犬を中心にした動物の本のコレクション  
三百冊の「井筒文庫」、戦争関係の資  
料一万三千点の「佐藤文庫」があるが  
新たに昨年一月亡くなられた梶井護  
士界の長老、故小野崎正明氏から、故  
人の意志として、氏が生がいをかけて  
収集された法律関係の専門書が多数当  
館に贈られ、「小野崎文庫」として加  
わることになった。

公共図書館はその性格上あらゆる部  
門の資料を収集し、均衡のとれた蔵書  
構成にすることが要求される。その結  
果、収集された資料をみると、各図書  
館の予算不足とか、日本図書館協会の  
選定速報、図書新聞等同じツールを使  
って選択するなどの制約から同じよう  
なものになりがちである。

したがって個人が生がいをかけて、  
一つの専門分野の資料を収集した「個  
人文庫」は非常に貴重な存在である。  
世界に冠たる大英博物館は個人のコレ  
クションが基になっているといわれてい  
る。

当館の個人文庫には、江戸時代の軟

朝日、民報、民友等の各紙で「ピツ  
ク・プレゼント法律の専門書約一万冊  
など」と紹介されたが、その概要は、法  
律関係図書・雑誌・判例集、一般図書  
等で二万五千二百冊、内訳は図書扱いと  
したものの四千四十九冊、雑誌扱いとし  
たもの一万六千三百冊にのぼり、その評  
価額は九百九十二万六千八百七十円に

ものぼる。  
小野崎氏の本集めの基本方針は、法  
学の学問的伝統のある東大、京大各法  
学部の資料(図書・雑誌)が大部分で  
その他に若干数の旧帝大系資料も含ま  
れている。

学問的な価値のある雑誌では、東大  
法学部の機関誌「法学協会雑誌」、京大  
法学部の機関誌「法学論叢」があり、  
なかでも法学協会雑誌は明治二十年後  
半からのものが一応そろっている。実  
務とも学問とも関係のあるものでは、未  
川博責任編集になる有斐閣発行の「民  
商法雑誌」が創刊号からそろっている  
のも特色にあげられる。

実務雑誌では「判例タイムズ」「判例  
時報」「ジュリスト」が創刊号からそろ  
っている。分野ごとに紹介すると、「公  
法研究」「私法」「民事訴訟法雑誌」、弁護  
士会の機関誌である「自由と正義」も  
そろっている。総合雑誌では昭和十二  
三年頃からの中央公論がだいたいそろ  
っている。

図書で力をいれられたのは民法、商  
法などの民事法、民事手続法である。「民  
事訴訟法」とか「強制執行法」とかで  
ある。また氏が行政機関の各種委員な  
どもつとめられた関係か、「行政法」  
とか「労働法」とか「教育法」、あるいは  
「憲法」などの分野にも力を入られ  
れたようである。

その他には「法哲学」とか「法制史」と  
か、「国際法」とか、「国際私法」も集め  
られており、文字通り法律全般にわた

っている。

東大、京大各法学部の教授たちの講  
義録や論文集なども集められている。

珍しいものとしては岡松参太郎著「註  
釈民法理由 上・中・下」(有斐閣 明  
治30刊)があり、代表的なものとして  
は鳩山秀夫著「民法研究」(岩波書店昭和  
5・6刊)とか、近藤英吉著「註釈日  
本民法」(昭和7刊)とか、石坂晋四郎  
著「日本民法」(有斐閣 大正4・5刊)  
がある。なかでも特色のあるものは、  
民法の起草者である梅謙次郎著の「民  
法講義」(有斐閣 大正7刊)など数え  
あげればきりが無い。最近のものでは  
中川善之助、我妻栄のほとんどの著作  
がそろっている。

その他、各分野にわたって種々の特  
色のある本があるが、それは今となっ  
ては品切本とか、絶版本とかがほとん  
どで、たいへん貴重なものである。

判例集については、明治二十年代か  
らつい最近までの大審院・最高裁の全  
判例集がそろっている。

その他判例集では、戦後の高等裁判  
所判例集、下級裁判所判例集、行政事  
件判例集、労働事件判例集などが整備  
されている。

数年前、東大法学部が地方弁護士  
の活動状況を調査したさい、氏のコレク  
ションをみて「地方でこれだけそろっ  
ているのはきわめて珍しい」と評価さ  
れたとのことであるが、まことに貴重  
なコレクションである。